

3月29日 受難の主曰（枝の主曰）

本当のいけにえ

マルコによる福音書 14 章 1 節～ 15 章 47 節

¹さて、過越祭と除酵祭の二日前になった。祭司長たちや律法学者たちは、なんとか計略を用いてイエスを捕らえて殺そうと考えていた。²彼らは、「民衆が騒ぎだすといけないから、祭りの間はやめておこう」と言っていた。

³イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家において、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粋で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。⁴そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った。「なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。⁵この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。」そして、彼女を厳しくとがめた。⁶イエスは言われた。「するまにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。⁷貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。⁸この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。⁹はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」

¹⁰十二人の一人イスカリオテのユダは、イエスを引き渡そうとして、祭司長たちのところへ出かけて行った。¹¹彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすれば折よくイエスを引き渡せるかとねらっていた。

¹²除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊を屠る日、弟子たちがイエスに、「過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。¹³そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人について行きなさい。¹⁴その人が入って行く家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をするわたしの部屋はどこか」と言っています。』¹⁵すると、席が整って用意のできた二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために準備をしておきなさい。」¹⁶弟子たちは出かけて都に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。¹⁷夕方になると、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。¹⁸一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている。」¹⁹弟子たちは心を痛めて、「まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。²⁰イエスは言われた。「十二人のうちの一人で、わたしと一緒に鉢に食べ物を浸している者がそれだ。²¹人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」

²²一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」²³また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。²⁴そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。²⁵はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」²⁶一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

²⁷ イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつまずく。

『わたしは羊飼いを打つ。

すると、羊は散ってしまう』

と書いてあるからだ。²⁸ しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」²⁹ するとペトロが、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った。³⁰ イエスは言われた。「はっきり言うておくが、あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」³¹ ペトロは力を込めて言い張った。「たとえ、御一緒に死なねばならなくても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません。」皆の者も同じように言った。

³² 一同がゲツセマネという所に来ると、イエスは弟子たちに、「わたしが祈っている間、ここに座っていないさい」と言われた。³³ そして、ペトロ、ヤコブ、ヨハネを伴われたが、イエスはひどく恐れてもだえ始め、³⁴ 彼らに言われた。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、目を覚ましていなさい。」³⁵ 少し進んで行って地面にひれ伏し、できることなら、この苦しみの時が自分から過ぎ去るようにと祈り、³⁶ こう言われた。「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」³⁷ それから、戻って御覧になると、弟子たちは眠っていたので、ペトロに言われた。「シモン、眠っているのか。わずか一時も目を覚ましていられなかったのか。³⁸ 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。心は燃えても、肉体は弱い。」³⁹ 更に、向こうへ行って、同じ言葉で祈られた。⁴⁰ 再び戻って御覧になると、弟子たちは眠っていた。ひどく眠かったのである。彼らは、イエスにどう言えばよいのか、分からなかった。⁴¹ イエスは三度目に戻って来て言われた。「あなたがたはまだ眠っている。休んでいる。もうこれでいい。時が来た。人の子は罪人たちの手に引き渡される。⁴² 立て、行こう。見よ、わたしを裏切る者が来た。」

⁴³ さて、イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダが進み寄って来た。祭司長、律法学者、長老たちの遣わした群衆も、剣や棒を持って一緒に来た。⁴⁴ イエスを裏切ろうとしていたユダは、「わたしが接吻するのが、その人だ。捕まえて、逃がさないように連れて行け」と、前もって合図を決めていた。⁴⁵ ユダはやって来るとすぐに、イエスに近寄り、「先生」と言って接吻した。⁴⁶ 人々は、イエスに手をかけて捕らえた。⁴⁷ 居合わせた人々のうちのある者が、剣を抜いて大祭司の手下に打ってかかり、片方の耳を切り落とした。⁴⁸ そこで、イエスは彼らに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って捕らえに来たのか。⁴⁹ わたしは毎日、神殿の境内で一緒にいて教えていたのに、あなたたちはわたしを捕らえなかった。しかし、これは聖書の言葉が実現するためである。」⁵⁰ 弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。

⁵¹ 一人の若者が、素肌に亜麻布をまもってイエスについて来ていた。人々が捕らえようとする、⁵² 亜麻布を捨てて裸で逃げてしまった。

⁵³ 人々は、イエスを大祭司のところへ連れて行った。祭司長、長老、律法学者たちが皆、集まって来た。⁵⁴ ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで入って、下役たちと一緒に座って、火にあたっていた。⁵⁵ 祭司長たちと最高法院の全員は、死刑にするためイエスにとって不利な証言を求めたが、得られなかった。⁵⁶ 多くの者がイエスに不利な偽証をしたが、その証言は食い違っていたからである。⁵⁷ すると、数人の者が立ち上がり、イエスに不利な偽証をした。⁵⁸ 「この男が、『わたしは人間の手で造ったこの神殿を打ち倒し、三日あれば、手で造らない別の神殿を建ててみせる』と言うのを、わたしたちは聞きました。」⁵⁹ しかし、この場合も、彼らの証言は食い違った。⁶⁰ そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」⁶¹ しかし、イエスは黙り続け何もお答えにならなかった。

そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。⁶² イエスは言われた。「そうです。

あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、
天の雲に囲まれて来るのを見る。」

⁶³大祭司は、衣を引き裂きながら言った。「これでもまだ証人が必要だろうか。⁶⁴ 諸君は冒瀆の言葉を聞いた。どう考えるか。」一同は、死刑にすべきだと決議した。⁶⁵ それから、ある者はイエスに唾を吐きかけ、目隠しをしてこぶしで殴りつけ、「言い当ててみる」と言い始めた。また、下役たちは、イエスを平手で打った。

⁶⁶ペトロが下の中庭にいたとき、大祭司に仕える女中の一人が来て、⁶⁷ペトロが火にあたっているのを目にすると、じっと見つめて言った。「あなたも、あのナザレのイエスと一緒にいた。」⁶⁸ しかし、ペトロは打ち消して、「あなたが何のことを言っているのか、わたしには分からないし、見当もつかない」と言った。そして、出口の方へ出て行くと、鶏が鳴いた。⁶⁹ 女中はペトロを見て、周りの人々に、「この人は、あの人たちの仲間です」とまた言いだした。⁷⁰ ペトロは、再び打ち消した。しばらくして、今度は、居合わせた人々がペトロに言った。「確かに、お前はあの連中の仲間だ。ガリラヤの者だから。」⁷¹ すると、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、「あなたがたの言っているそんな人は知らない」と誓い始めた。⁷² するとすぐ、鶏が再び鳴いた。ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。

¹夜が明けるとすぐ、祭司長たちは、長老や律法学者たちと共に、つまり最高法院全体で相談した後、イエスを縛って引いて行き、ピラトに渡した。²ピラトがイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問すると、イエスは、「それは、あなたが言っていることです」と答えられた。³そこで祭司長たちが、いろいろとイエスを訴えた。⁴ピラトが再び尋問した。「何も答えないのか。彼らがあのようにお前を訴えているのに。」⁵しかし、イエスがもはや何もお答えにならなかったため、ピラトは不思議に思った。

⁶ところで、祭りの度ごとに、ピラトは人々が願ひ出る囚人を一人釈放していた。⁷さて、暴動のとき人殺しをして投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいた。⁸群衆が押しかけて来て、いつものようにしてほしいと要求し始めた。⁹そこで、ピラトは、「あのユダヤ人の王を釈放してほしいのか」と言った。¹⁰祭司長たちがイエスを引き渡したのは、ねたみのためだと分かっていたからである。¹¹祭司長たちは、バラバの方を釈放してもらうように群衆を扇動した。¹²そこで、ピラトは改めて、「それでは、ユダヤ人の王とお前たちが言っているあの者は、どうしてほしいのか」と言った。¹³群衆はまた叫んだ。「十字架につけろ。」¹⁴ピラトは言った。「いったいどんな悪事を働いたというのか。」群衆はますます激しく、「十字架につけろ」と叫び立てた。¹⁵ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

¹⁶兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。¹⁷そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、¹⁸「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。¹⁹また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拜んだりした。²⁰このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

²¹そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。²²そして、イエスをゴルゴタという所—その意味は「されこうべの場所」—に連れて行った。²³没薬を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはお受けにならなかった。²⁴それから、兵士たちはイエスを十字架につけて、

その服を分け合った、
だれが何を取るかをくじ引きで決めてから。

²⁵ イエスを十字架につけたのは、午前九時であった。²⁶ 罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。²⁷ また、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右にもう一人は左に、十字架につけた。²⁹ そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おやおや、神殿を打ち倒し、三日で建てる者、³⁰ 十字架から降りて自分を救ってみろ。」³¹ 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒にあって、代わる代わるイエスを侮辱して言った。「他人は救ったのに、自分は救えない。³² メシア、イスラエルの王、今すぐ十字架から降りるがいい。それを見たら、信じてやろう。」一緒に十字架につけられた者たちも、イエスをののしった。

³³ 昼の十二時になると、全地は暗くなり、それが三時まで続いた。³⁴ 三時にイエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。³⁵ そばに居合わせた人々のうちには、これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる」と言う者がいた。³⁶ ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。³⁷ しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。³⁸ すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。³⁹ 百人隊長がイエスの方を向いて、そばに立っていた。そして、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「本当に、この人は神の子だった」と言った。⁴⁰ また、婦人たちも遠くから見守っていた。その中には、マグダラのマリア、小ヤコブとヨセの母マリア、そしてサロメがいた。⁴¹ この婦人たちは、イエスがガリラヤにおられたとき、イエスに従って来て世話をしていた人々である。なおそのほかにも、イエスと共にエルサレムへ上って来た婦人たちが大勢いた。

⁴² 既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、⁴³ アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いした。この人も神の国を待ち望んでいたのである。⁴⁴ ピラトは、イエスがもう死んでしまったのかと不思議に思い、百人隊長を呼び寄せて、既に死んだかどうかを尋ねた。⁴⁵ そして、百人隊長に確かめたうえ、遺体をヨセフに下げ渡した。⁴⁶ ヨセフは亜麻布を買い、イエスを十字架から降ろしてその布で巻き、岩を掘って作った墓の中に納め、墓の入り口には石を転がしておいた。⁴⁷ マグダラのマリアとヨセの母マリアとは、イエスの遺体を納めた場所を見つめていた。

他の朗読：イザヤ 50:4～7 詩編 22:8, 9, 17～20, 23, 24 フィリピ 2:6～11

Lectio …読む

聖週間への準備として今日は、聖木曜日からイエスの十字架までのマルコの物語を読みます。これはおそらく、福音書の中で一番初めに書きとめられた部分でした。マルコにとって、受難こそイエスと彼が「私の父よ」と呼ぶ神との間に起こったことの全てでした。

それは全てがとても現実的です。14章 35、36節で、イエスは御父にこの苦しみから救ってくれるように懇願します。15章 34節の中で、十字架で死に臨んだイエスは詩編 22編 2節の言葉を用いて、神が彼を見捨てたと神に訴えます。

登場人物のほとんどは、卑しく、残忍で不遜に見えます。しかし、ペトロについての描写は的確です。ペトロは寛大で愛すべき人ですが、イエスの愛を公に言い表すべき時には弱い人間であったことが示されています（14章 66～72節）。

マルコは非常に否定的な言葉でユダの行動を要約します。マルタの姉妹マリアが非常に高価な香油をイエスに注ぐ最初のエピソードの中で、ユダは冷淡な態度をとります。イエスはマリアのこの行い

を愛情深さの表れとしてだけではなく、イエスの死に対する預言として見ています（14章3～9節）。

ユダヤ教の指導者たちは、一貫して心を動かすことなく、冷酷です。そして彼らの目の前で一人の男が裸で死のうとしているのにも構わず、彼らの教義上の立場を固持します（14章43～65節）。

ローマ兵たちは、イエスに肉体的な刑罰を与えます。鞭打ちの間にも冗談を言い、人間的な苦しみに無関心ようです。しかし彼らの頭である百人隊長は、イエスは神の子だったと認めた最初の人となりました（15章16～20、39節）。

「無関心」がこの箇所の特徴となっています。あまりにも多くの人々が何もしませんでした。人々は死にかけている男を、ただぼかんと口を開けて見ていたのです。

イエスの女性の弟子たちは、イエスを思う気持ちを行動で表します。十字架は心痛む光景であったに違いないのに、彼女たちは十字架の下に留まります。彼女たちはまた、イエスの埋葬の場所にも立ち会っています（15章40、41、47節）。

Meditatio …黙想する

受難物語の中で、イエスを表すことが出来る3つの言葉を選んでみてください。

御父から引き離される経験は、イエスにとってどんなものだったのでしょうか。考えてみましょう。

フィリピ2章6～11節の驚嘆すべき言葉を黙想しましょう。

Oratio …祈る

一瓶の香油をイエスに注いだ婦人の行動は冒険的でした。それは、他の人々、そして恐らくイエス自身の目にも、愚かなことに見えてしまうかもしれません。しかし彼女はイエスを愛しており、これこそが彼女の愛を示す方法だったのです。この「一瓶の香油」を、多分あなたも作ることができます。一枚の紙を手に取り、イエスへの愛の手紙を書き、それから祈りの中で、それを彼に差し出してみましょう。あるいは、あなたの崇拜の念を表現できるような、気に入った詩編や賛歌の言葉を選んでイエスに捧げましょう。

Contemplatio …観想する

第一朗読のイザヤ書は、神の意志にまったく抵抗しない忠実な僕（イザヤ50章4～7節）としてのイエスを描いています。第二朗読はまた、人間と同じものになり、死の辱めを受けるまで自分自身を無にした（フィリピ2章6～11節）イエスについて語っています。イエスはこのために、御父を知り、信頼することを学ばねばなりませんでした。愛に満ちた従順に向けて、あなたはどんな一歩を踏み出せるでしょうか。あなたは神と共に過ごす質の高い時間を毎日どのようにして作り出せるでしょうか。